

タコノアシ	Penthorum chinense Pursh	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		ユキノシタ科
選定理由	大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。	<p>写真(後藤常明)</p> 
形態の特徴	直立する茎が80cm程度になる湿地生の多年草。細かい鋸歯があるやや薄い葉は、両端が尖った披針形で互生し、ほとんど無柄。特徴的なタコ足状の集散花序が茎の先端につく。一つの花は5mm程度で淡黄緑色。果実は星形で中に粉のように細かい種子がつまっている。	
生態的特徴	河川下流部の湿地やため池の周辺、丘陵地の泥湿地など、日当たりがよく、水位の変動する場所を好む。花期は7月下旬-9月。	
分布状況	本州、四国、九州、沖縄諸島、国外では東アジアに広く分布する。岐阜県においては飛騨地方および美濃地方の西部と東部に分布する。	
減少要因	河川の開発やため池の改修、土地の造成など、生育環境の悪化による。	
保全対策	水際の植生帯の保全、創出。	
特記事項	本種は増水時だけ水に浸かるような場所に生育するため、水際を緩傾斜としたり、多様な冠水頻度が起きるよう起伏に富んだ湿地になるよう配慮を要する。	
参考文献	佐竹義輔他編集(1982)日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類:p.155. 平凡社 岐阜県健康福祉環境部自然環境森林課編集(2001)岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物—岐阜県レッドデータブック—:p.55. 岐阜県 矢原徹一監修(2003)ヤマケイ情報箱レッドデータプランツ:P.299. 山と溪谷社	

文責:後藤常明